

梅津祐介の虹の輪（第5・6学年複式）研究計画

1 本研究で目指す子ども

総合的な学習の時間（以下、総合学習）で育成する資質・能力は、「よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていく」ためのものだとされている。自己の生き方を考えることは、子どもが実社会（以下、地域）の課題と向き合い、行動した社会的価値を考えた先にあるものである。そこで本研究では、**地域の課題を解決する道筋を探り、行動したことの社会的価値を考える子ども**を目指す。具体的には、地域の課題の解決につながる行動の手順を考え、客観的な指標を基に自分たちの行動が地域の課題を解決することにつながったのかを考える姿である。

これまでの学習でも、地域の課題を解決するために行動し、その価値を子どもに問うことを行ってきた。しかし、例えば、「〇〇のよさをたくさんの人に伝えることができた」などと、行動したこと自体に価値を感じる子どもの姿があった。目的と行動を結び付けられず、自分たちの行動が地域に対して本当に何かの役割を果たしたのかということまで考えていないのである。

この原因は、地域の課題の解決につながる「〇〇に行って体験する」「専門家の話を聞く」などの一つ一つの行動を、その都度振り返る指導で留まっていたからである。このような指導では、元来、物事を主観的にとらえる子どもにとって、自分がどのような学習を積み重ねてきたのか考えることは難しい。そのため、地域に果たした役割を考えるに至らなかったのである。

そこで、次の2点の改善を行う。1点目は、学習者である子ども自身に学習の進め方を考えさせることである。そのことによって子どもは、目的と行動を結び付けることができる。2点目は、客観的な指標（インタビューや街頭アンケートなどの結果）を提示して、課題の解決を図らせることである。そのことによって子どもは、指標を分析し、課題の解決方法や行動したことの価値を客観的な視点で考えることができる。

このような改善によって、目指す子どもを具現していく。

2 本研究で育成する資質・能力、そのために子どもが働かせる「見方・考え方」

「見方・考え方」		
○学習対象の特徴や学習対象にかかわる人の思いに着目し、自己の在り方と関連付けて考える「見方・考え方」		
①知識・技能	②思考力・判断力・表現力	③態度
○実社会・実生活における様々な課題の解決に関する知識	○課題解決に向けて、情報を適切に収集する力 ○整理した情報を多面的・多角的に解釈する力 ○解釈した情報を基に、自分の考えを明確にする力	○課題の解決に向けて、主体的に取り組もうとする態度 ○自ら社会にかかわり、参画しようとする態度

3 主張する働き掛け

子どもは、自分たちが住む地域をよくする活動を行うことが総合学習だと考えている。これまでの総合学習で地域の課題にふれ、その解決に取り組んできた経験があるからである（①**知識・技能**）。このような子どもに、単元の導入で地域の課題を知ることができる資料を与えたり、課題を解決する活動を行っている人に出会わせたりする。このことによって、子どもは、地域の課題に気が付き（②**思考力・判断力・表現力**）、「地域の課題を解決する方法を考えたい」「自分たちも何か活動してみたい」といった思いをもつ（③**態度**）。ただし、これらの思いを表す方法は具体的になっていない状態である（C0）。このような子どもに、以下のように働き掛ける。

働き掛け1

学習対象に対する新潟市民の感覚について問う。

学習課題を設定するための働き掛けである。学習対象への思いを確認するために、「学習対象をどう思うか」と問う。子どもは、**学習対象の特徴、学習対象にかかわる人の思いに着目し、自己の在り方と関連付けて考える「見方・考え方」**を働かせて、学習対象の魅力を説明する。その後、「新潟市民も同じように思っているか」と問う。子どもは、自分と新潟市民の感覚が違うことに気付く。これによって子どもは、「どうしたら新潟市民に学習対象のことをもっと知ってもらえるか」という学習課題を設定する。

働き掛け2

学習課題を解決するための手順について問う。

課題解決の見通しをもたせるための働き掛けである。まず、学習課題を解決するために、どのような手順で学習を進めていけばよいかを問う。子どもは、**学習対象の特徴、学習対象にかかわる**

人の思いに着目し、自己の在り方と関連付けて考える「見方・考え方」を明確にして、「学習対象に関する新潟市民の情報を集める必要がある」「どんな情報を集めればよいか検討する」「集めた情報を分析する必要がある」等の手順を考える。そして子どもは、新潟市民の情報を集める方法や、集めたい情報の具体的な内容を考えたり（②思考力・判断力・表現力）、実行への意欲を高めたりしていく（③態度）。

働き掛け3

学習対象に関する新潟市民の情報を提示し、情報の活用方法と学習課題の解決方法について問う。

一応の学習課題の解決を図らせるための働き掛けである。子どもが集めた学習対象に関する新潟市民の情報を数値と記述で提示し、それについてどう思うかを問う。これによって子どもは、学習対象の認知状況を把握する。その後、「提示された情報が学習課題の解決に役立つのか」「学習課題をどう解決するのか」と問う。子どもは提示された情報を複数の視点から分析し、学習課題を解決するための方法を考えるとともに、「課題を解決するために大切なのは、学習対象にかかわる人の思いを伝えること。そのことを新潟市民に伝えたい」という意欲を高める（②思考力・判断力・表現力、③態度、協働性）。

働き掛け4

学習成果を発表する場を設定し、学習対象を取り巻く状況に変化があったと思うか問う。

自分たちの行動の社会的価値について考えさせるための働き掛けである。学習課題の解決が本当に妥当なものだったのかを判断するために、新潟市民の前で学習成果を発表する（①知識・技能）。新潟市民からの評価は、アンケートのかたちで受け取る。その後、アンケートの結果を分析させ、「学習対象について学習したことで、学習対象を取り巻く環境に変化があったのか」と問う。このことによって子どもは、自分たちの行動を客観的にとらえ、「大切なのは学習対象にかかわる人の思いを伝えること。私たちがそれを実行することで、学習対象に関心をもってくれた人がいる。これが私たちの学習成果だと思う」と考える（②思考力・判断力・表現力）。このように、自分たちの行動が地域の課題を解決することにつながったのか考えることで、地域の課題を解決する道筋を探り、行動したことの社会的価値を考える子ども（Cn）になる。

働き掛け5

「学習対象と私」というテーマで学習作文を書く場を設定する。

これまでに発揮した資質・能力の自覚を促すための働き掛けである。「学習対象と私」というテーマで作文を書かせることで、子どもは、活動することを通して獲得した知識を概念化したり、課題解決に向けてどのように学習を進めてきたのかを振り返ったりしていく。さらに、今後の活動への展望についても考えることは、単元で発揮した資質・能力の自覚が促された姿であると考えられる。

4 検証

(1) 検証すること

- ① 構想した働き掛けにより、想定したCnになったか。
- ② 構想した働き掛けにより、想定した「見方・考え方」を働かせることができたか。
- ③ 構想した働き掛けにより、想定した資質・能力を発揮することができたか。
- ④ 構想した働き掛けにより、想定した資質・能力を自覚することができたか。

(2) 検証の方法

- ① 働き掛け4を受けて、行動したことの社会的価値を考える子どもの姿が見られたかどうかを、子どもの発言やワークシートの記述から判断する。
- ② 働き掛け1・2を受けて、学習対象の特徴や学習対象にかかわる人の思いに着目し、自己の生き方と関連付けて考える「見方・考え方」を働かせているかどうかを、実際の子どもの発言やつぶやき、ワークシートの記述から判断する。
- ③ 働き掛け2・3・4を受けて、想定した資質・能力を発揮したかどうかを、実際の子どもの発言やつぶやき、発言に対する同調、ワークシートの記述から判断する。
- ④ 働き掛け5を受けて、想定した資質・能力を自覚したかどうかを、子どもの学習作文から判断する。

5 年間の授業計画

- (1) 指定研究授業 (7月)「未来開墾！食文化創造都市ニイガター米どころ新潟でなぜ小麦？」
(20時間)
- (2) セルフ授業研修会 (9月)「未来開墾！食文化創造都市ニイガター小麦畑でつかまえて」
(20時間)
- (3) 初等教育研究会 (2月)「未来開墾！食文化創造都市ニイガターコメとコムギと、時々、オカズ」
(30時間)